

池田高校 『エンドレスエイプリルフル』

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽

池田高校は「間のつめかたがうまい賞」です。

何回も同じ日を繰り返すという話で、一回やったところは、流れるように話しているけど、一つ一つの言葉に感情を入れて話していたからです。

コロナが流行っている現代が舞台だけれど、だんだんとタイムループや宇宙人など、現実離れた要素が出てきて次の展開が予想できず、どんどんと引き込まれる。難しそうな大人数でのハモリや行動など、息があっており、見ていて全く苦じゃなかったし、テンポの良さもあり、見ていて気持ちよかった。

舞台装置は、パネルが無く椅子や棚など、カラフルな家具が設置されており、室内が再現されていて、教室を部室として見る以外にもこういった表現方法があるのかと感心した。照明も明るすぎず暗すぎず、舞台装置やキャストの表情、衣装などがよく見えてよかった。揃った行動とぴったりとかみ合ったセリフが音響にもかっちりかみ合っていた。

場面転換の時、暗転を使わずに音響と動きで舞台からはけ、またすぐに瀬奈が入ってくるという動きのおかげで劇がだれることなく、そこもテンポの良さの一部になっており、また、多すぎる情報量で脳みそがパンクすることもなく、内容が頭に入ってきやすいとても良いスピードだった。

リズムよく進んでいく話や、マスクをせず、近寄ったり自由に動いたりするキャストを見ていて、演劇部に入ったばかりのころを思い出して、懐かしさを感じてしまった。去年、一つ上の先輩方と全く劇が出来ず、まだ先輩と劇がしたいという、瀬奈にとっても共感ができて少し涙が出てしまった。

そして、大会が出来ない→タイムループという流れが毎度あり、それは無限ループというか、永遠に続く悪夢のようなんだけど、それがいつまで続くんだろう、と思った。それはコロナ禍にある私たちの悪夢でもあるかなと思った。

自分が願ったせいですってこの一日をループしてるんだと気付けた瀬奈が、自分の気持ちに区切りをつけて、先輩に別れを告げることができたシーンは、前のセリフが早く、どこかコミカルだったけれど、それにシリアスさが加えられていた。叶えられない夢を捨てることで、現実の悪夢から一步踏み出せる、大会が出来るというオチで、とてもきれいなおとし方をしたなと思った。

悪夢のような現実でも、一步ずつ前に向かっていかなければならない、というメッセージを受け取った。池田高校の皆さん、お疲れ様でした。

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽